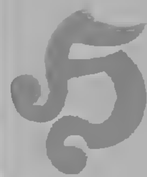
財団法人 日本ハンドボール協会編　平成22年 5月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻509号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集

第34回日本リーグプレーオフ
第33回全国高校選抜大会

5
MAY.2010・No.509



[表紙写真：第34回日本リーグプレーオフ女子で初優勝を果たしたソニーセミコンダクタ九州・髙橋恵選手]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/



2010年競技規則改訂に期待すること



（財）日本ハンドボール協会常務理事　植村　彰

2009年チュニジア・チュニスガマールで開催されたIHFコーチ・レフェリーシンポジウムにおいて2010年8月1日より実施される競技規則改訂の説明を受け、審判部では競技規則研究委員会・審判審査指導委員会と担当部門ごとに会議を重ね伝達への準備を進めてきました。IHFでは2010年8月1日施行のところ、国内では新年度のスタートに合わせ4月1日より改訂内容の一部について暫定的実施することを決定しました。伝達方法は過去の競技規則改訂時の混乱を教訓とし、「正しい伝達と時期」を検討し取り組んできました。IHFシンポジウムでは「内容の整備はあれども実施を取りやめたり遅らせたりすることはない。必ず実施する。」とIHF/PRCのメンバーは強調していました。が、現在に至るまでにシンポジウムで説明された内容とは違ったいくつかの変更点が生じています。

3月1日、国際ハンドボール連盟（IHF）のホームページに突然、新しい競技規則と変更点についての解説が掲載されました。定期的なIHF/PRCメンバーとのメールのやり取りでは「5月1日に競技規則が発行される。」との情報はありましたが、ホームページへの掲載は正直驚かされました。審判部では、競技規則研究委員会を中心にその内容について確認を行いました。すると、昨年のIHFコーチ・レフェリーシンポジウムにおいて「内容について変更しない」と伝達されていた改訂の中身に大きな変更がなされ、また以前は含まれていなかった項目が新たに出ていることが分かりました。既に国内への伝達として、1月に審判合同委員会（各連盟審判長・ブロック審判長の出席）を、2月にはJHLウインターカップ福井大会で全国都道府県審判長会議を開催し、競技規則改訂についての伝達および説明を既に行ったところでした。IHFホームページの掲載内容に合わせ、審判部では新たな競技規則改訂資料を日本ハンドボール協会ホームページに掲載、各連盟審判長・ブロック審判長からは都道府県審判長をはじめ関係者への周知徹底をお願いしたところです。当初、目指していた「正しい伝達」が今回、情報の変更が重なり一部混乱を引き起こしてしまったことについて誌面をお借りし深くお詫び申し上げます。

今回の競技規則改訂をIHFは当初2010年8月1日より施行するとしていましたが、2010年7月1日に変更されています。また、新競技規則書の発行については、IHFより5月1日に最終版が届く予定となっています。IHFホームページに掲載された競技規則については既に競技規則研究委員会で翻訳が完了しており、最終版との照合を行ったうえ、7月1日の施行前には新競技規則書を発行出来るよう準備を進めています。

今回のIHFが示す競技規則改訂には、ハンドボール競技の概念である相手を尊重すること。とくに、相手を傷つけるような行為についての罰則が明文化されています。

また、ハンドボール競技の見所である6mと9m（フリースローラインとゴールエリアライン）の攻防には、2008年北京オリンピック、2009年世界選手権クロアチア大会の分析からブロックプレーにおけるオフェンス側の許される行為と許されない行為について明確にすることにより、ハンドボール競技がさらにクリーンで発展的な競技となることを願っています。国内においても「平成22年度　審判員の目標」に観客を魅了するクリーンハンドボールを目指すと言う文言を入れました。

全日本総合選手権や日本リーグプレーオフをはじめとする大会では、年々、観客動員数が増加傾向にあり、盛況となっています。

今回の競技規則改訂が、国内においてもさらなるハンドボール人気の上昇契機となることを願って止みません。



第34回 日本ハンドボールリーグプレーオフ

大同特殊鋼は5年連続14回目の優勝
ソニーセミコンダクタ九州は初優勝

第34回日本ハンドボールリーグ総括

日本ハンドボールリーグ機構委員長　高村 誠一

<はじめに>

3月21日に東京体育館で行われましたプレーオフ決勝で、第34回日本ハンドボールリーグが終了いたしました。

リーグ開催に際しまして、試合を準備いただきました開催地協会の皆様、多くのご支援をいただきましたスポンサー各社様、会場に足を運んでくださいましたファンの皆様、また、日本リーグを支えていただきました多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げる次第です。誠にありがとうございました。

また、男子世界選手権アジア予選の開催日程変更により、レギュラーシーズンに男子代表選手がプレーできない期間が発生し、当該開催地協会の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

<レギュラーシーズン>

第34回大会は、ハンドボールファン拡大に大きく貢献してくれた宮﨑大輔選手のスペイン移籍に加え、これまで日本リーグの歴史を築き、リーグ6連覇という輝かしい戦歴を誇る名門Honda、更には永年リーグを支え、盛り上げてくれたトヨタ自動車が撤退するという、リーグの盛り上がりという点では非常に厳しい状況でのスタートでした。しかし、各チームとも全国各地で気迫あふれるプレーを披露してくれ、開催地協会の大会盛り上げへの地道な努力も相まって、例年以上に盛り上がったレギュラーシーズンになりました。

シーズン中盤以降も男女とも毎週順位が入れ替わるデッドヒートを繰り広げ、女子は最終週まで順位が確定せず、男子は最終週までプレーオフ出場チームが決定しないという非常にスリリングな展開となりました。最終的なレギュラーシーズンの成績は男子1位：大同特殊鋼、2位：トヨタ車体、3位:湧永製薬、4位:トヨタ紡織九州。女子は1位:北國銀行、2位：オムロン、3位：ソニーセミコンダクタ九州でした。

今リーグは、ファン拡大のために開催地協会と各チームとが連携を密にし、これまでの会場でのファンサービスに加え、地域貢献として子供達へのハンド講習会を積極的に開催いたしました。タイトなスケジュールの中ご協力いただきました各チームに感謝申し上げると共に、このような開催地協会の大会盛り上げに対する様々な工夫は、必ずやファン拡大に結びつくものと確信しております。

<プレーオフ>

プレーオフは、今回東京体育館で行われました。収容人数6,500人という駒沢体育館の倍の会場で、一番懸念したのは







ファンの皆さんで会場が埋まるかどうかでした。関東協会をはじめ地元都県協会の絶大なるご協力に加え、政財界のハンドボールOBの方々、各チームの応援団、小学生から一般まで様々な方法でPRを行い、できるだけ多くの皆さんにハンドボールを堪能していただこうと努力いたしました。大会運営も東京都協会、関東学生連盟の皆様の献身的なサポートを受け、会場に来ていただいた方に少しでも多くの満足を感じていただけるよう努力してまいりました。

結果決勝戦では、アリーナ席、2階席はほぼ満杯で、3階席も半分以上席が埋まり、あらためて集客にご協力いただきました全ての関係者ならびに大会運営を支えていただいた皆様に感謝申し上げます。

試合内容もスリリングだったレギュラーシーズンのとおり、男女7チーム、どのチームが優勝してもおかしくない緊迫したものでした。女子はソニーセミコンダクタ九州が、6年連続6回目のプレーオフ出場で悲願の初優勝を果たしました。リーグ3位のソニーがリーグ1位の北國銀行に、前半2点のビハインドを跳ね返し1点差で見事勝利を勝ち取りました。最高殊勲選手には髙橋恵選手（ソニーNo.4）が、殊勲選手には横嶋かおる選手（北國No.9）が選ばれました。

男子は大同特殊鋼が5年連続14回目の優勝を飾りました。初のプレーオフ決勝進出を果たし、勢いに乗るトヨタ車体を、大同はまさに王者の意地で跳ね除け、これまた1点差で勝利をつかみました。最高殊勲選手には白元喆選手（大同No.20）が、殊勲選手には銘苅淳選手（車体No.19）が選ばれました。

素晴らしい熱戦を繰り広げてくれた各チーム、スタッフ・選手の皆さんに「素晴らしいハンドボールをありがとう！」と申し上げたいと思います。

＜来賓の皆様＞

今回も高円宮妃久子殿下、承子女王殿下には、男女決勝戦にご臨席を賜りご観戦いただきました。また、優勝チームへの優勝旗授与、選手一人ひとりへのメダルの授与までしていただきました。誠にありがとうございました。

また、安西孝之・日本体育協会名誉会長ご夫妻、竹田恆和・JOC会長、塩川正十郎・元財務大臣、福井俊彦・前日銀総裁ご夫妻、斎藤健・衆議院議員、蓮舫・参議院議員をはじめ多くのご来賓の皆様にもハンドボールの醍醐味をご堪能いただくことができました。

＜チャレンジ・ディビジョン開催＞

リーグ機構は今年度から、より多くのハンドボーラーに活動の機会を提供することを目的として、チャレンジ・ディビジョンをスタートさせました。参加チームは実業団、クラブ、大学、国体チームとバラエティーに富んでおり、男子全11チームが東西でリーグ戦を戦ったのち順位決定戦を行いました。見事初代チャンピオンに輝いたのは、Honda、トヨタ自動車といった旧日本リーグチームを撃破した、地元千葉国体に向けて強化中のFOGでした。今後更にこのディビジョンを拡充し、日本のハンドボールまた日本リーグ発展につなげたいと考えています。

＜第35回大会に向けて＞

来年度第35回大会も各地で熱戦が展開されることと思います。より多くのファンの皆様が会場に足を運んでいただけるよう、観戦する側の立場に立った大会運営に努力してまいります。

大会の盛り上げに何より大切なのは、コート上で繰り広げられる質の高いハンドボールですが、それには質の高い審判も必要ですし、厳しいファンの目も重要です。チーム、審判、観客、運営、それぞれがより高い質を追求することがリーグの発展につながると考えています。それが国際レベルでの競技力向上につながり、ひいてはロンドン五輪への道を切り開く一助になればと考えております。

課題を確実につぶしながら、魅力あるハンドボールリーグにすべく関係者一丸となって努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

優勝チームの声　大同特殊鋼（男子）

大同特殊鋼ハンドボール部監督　清水 博之

第34回日本ハンドボールリーグプレーオフを終えて

はじめに、昨年9月に開幕したレギュラーシーズから今回のプレーオフ終了まで、多くの関係者の方々にご協力ご尽力いただき最後まで気持ちよく試合をさせていただいたことに対し、心より感謝申し上げます。また、遠方にもかかわらず会場まで足を運んで下さったファンや応援団の皆様方、本当にありがとうございました。お陰様で第34回日本リーグプレーオフで5年連続14回目の優勝を飾ることができました。

レギュラーシーズンを振り返ると、1位通過できたことはとても嬉しいことですが、それまでの過程は決して簡単なものではありませんでした。結果は12勝1敗1分でありますが、どの試合も僅かな差でありどちらに転んでもおかしくない試合ばかりであったと感じています。そんな試合を選手達はチーム一丸で最後まで諦めず、個々の役割を徹底し一つ一つ勝ち星を重ねていってくれました。それと平行しながら若手選手やチームも力をつけていったように感じています。

プレーオフ準決勝では、レギュラーシーズンの唯一の黒星となったトヨタ紡織九州との対戦。苦しい試合になるとは予想しておりましたが、前半の3点ビハインドを跳ね返し決勝へ駒を進めることができました。レギュラーシーズンでの経験や1位通過の意地、前年度チャンピオンのプライドなど、僅かな部分で上回り勝つことができたと思っています。決勝戦もトヨタ車体に先手をとられてしまい、なかなか主導権を握ることができず、追いついたもののすぐさま逆転され、最後の最後まで分からない内容でしたが、運も味方し何とか1点差で最高の瞬間を迎えることができました。

一年間、とても苦しい練習を耐えぬき、最後の最後までついてきてくれた最高の選手達に感謝してます。

本当にありがとう。

今シーズン終了すると同時に来シーズンがスタートしますが、まずは日本のチャンピオンチームとして出場する東アジア選手権大会に向けて頑張っていきたいと思います。これからも、ハンドボールの「魅力」を追求し「夢と感動」を与え「世界に通用するハンドボール」を目指して、選手一同精進していきますのでご声援宜しくお願い申し上げます。

大同特殊鋼　白　元喆［最高殊勲選手賞］

プレーオフV5達成

3月20日・21日に東京体育館行われた第34回日本リーグプレーオフで、5年連続14回目の優勝を達成することができました。応援してくださった、会社の方々、家族、ファン、サポーター、そして一緒に闘ったチームメイトに心から感謝しています。

今シーズンを振り返ると、出足から好調を維持していましたが、終盤になるにつれて接戦の試合が多くなり、プレーオフV5へ向けて少し不安がありました。しかし、厳しい練習をチーム一丸となって乗り越え、最後はみんなで笑うことができました。個人的には今大会MVPを獲得することができましたが、私一人の力で獲れたわけではありません。若い頃に比べ体力も落ち、今大会も苦しい場面が何度もありました。そんな時にチームのみんなが助け合い、支えあって最後まで一緒に戦い抜いた結果がV5達成だと思います。また、日本ではこの試合が最後の大会だったので、最後の舞台で、最高のプレーをして、最高のチームメイトと優勝を勝ち取りたいという強い気持ちもありました。監督・コーチ・選手・トレーナーがそれぞれの役割をきっちりと果たし、強い気持ちで戦うことが大事だと思います。また、本年度の締めくくりとして、東アジアクラブ選手権が母国である韓国で開催されますが、最高のチームメイトと共に、強い気持ちで戦い抜きたいと思います。

来シーズンは今年よりもっと厳しい戦いになると思いますが、チームワークと強い心を武器にV6目指して頑張って欲しいと思います。

最後に、応援してくださった全ての方々に感謝しています。ありがとうございました。





優勝チームの声　ソニーセミコンダクタ九州（女子）

ソニーセミコンダクタ九州監督　郭　恵靜

プレーオフを終えて

この度、第34回日本ハンドボールリーグ、プレーオフにて初優勝を飾ることができ、とても嬉しく思っております。これまで支えてくださった関係者の方々、ファンの皆様、本当にありがとうございました。今回の優勝を私たち以上に喜んでくださるファンの皆様と触れ合いながら、本当に多くの方に支えられ、幸せな環境でハンドボールをやらせてもらえていることを心から実感しました。改めて心からお礼申し上げます。

今シーズンは、怪我人が多く出たこともあり、好不調の波が激しく、レギュラーシーズンは、安定性の欠ける内容の試合が多くありました。決して良い状態で臨めたプレーオフではなく、不安材料はいくつもありましたが、選手たちが本当によく頑張ってくれました。プレーオフまでの期間、練習中はもちろん、ビデオ分析やミーティングも積極的に行い、苦しい状況でも、どうにかしようと選手全員が一丸となったことが、今回の結果に繋がったと感じています。

この優勝は、今後のチームの自信につながる大きなものになったと思いますが、追われる立場となったわけではなく、まだまだ上を目指し安定して力を発揮できるよう努力していかなければならないと感じております。チャレンジャー精神を持ち続け、向上心を持って進んでいくというソニーのスタイルを貫くことで、これからファンの皆様にもっとハンドボールの楽しさを伝えていけるよう努力していきたいと思います。

今後とも、ソニーセミコンダクタ九州 BLUE SAKUYA を温かく見守ってくださいますよう宜しくお願い申し上げます。

ソニーセミコンダクタ九州　髙橋　恵〔最高殊勲選手賞〕

レギュラーシーズンを終えて3位でのプレーオフ進出。プレーオフ進出が決まっている最終戦でも持ち味が出せずに辛勝。「このままでは勝てない」という不安や焦りの方がはるかに大きく、いかに課題をクリアし自信をもって臨めるかが勝敗を左右すると思っていました。



そんな中、いざプレーオフに向けて頑張っていこう！という時期でのヘッドコーチのケガ。チームの得点源である監督の出場が危ぶまれる状況に立たされ、正直かなり苦しい状況であることは誰もが感じていました。しかし、この苦しい状況が逆に「とにかくディフェンスで粘って速攻にいこう」「個人技ではなくコンビネーションでシュートチャンスを作っていこう」と全員の結束力を強めることに。

毎日のように一緒にビデオを見て確認・反省をし、明日はこうしていこう、こんなコンビネーションを入れていこうなど、みんなでたくさん会話をしながらハンドボールに向き合う濃い２週間を過ごす中で、「やってきたことを出しきれば充分戦える」という自信につながっていきました。

試合が始まってみると、やはりセットオフェンスではなかなか得点できず相手に先行されてしまう試合展開。しかし、点差が離れても常にディフェンスで粘って速攻につなげられれば絶対に大丈夫！という自信とチームメイトに対する信頼感がありました。準決勝・決勝とも後半の勝負どころのディフェンスでみんなの結束力が一段と増し突破口を開くことができたと思います。

創部26年目にしての日本リーグ初制覇。「この優勝を待ち焦がれていた」という言葉をかけていただき、改めてたくさんの方々のバックアップや応援があってこそのチームであることを心から感じました。本当に感謝しています。



でも、ここからが新たなスタートであり、このチームの真価が問われていきます。今回の優勝に満足することなく、さらに高みを目指して日々ハンドボールと向き合っていきたいと思います。

戦　評

【男　子】

準決勝：3月 20 日（土）

大同特殊鋼　36（12-15, 24-17）32　トヨタ紡織九州



トヨタ紡織九州のスローオフで試合開始。両チームともディフェンスラインを上げた固い守りで点が入らない。開始5分、トヨタ紡織・阪のポストシュートが決まり初得点となる。そこから大同もサイドシュートを決め、ゲームが動き始める。その後、トヨタ紡織は攻めあぐみ大同がリードするも、トヨタ紡織の GK の活躍もあり両チームの点差は開かない。しかしトヨタ紡織は中畠の個人技で点を重ね、24 分で 12 対 12 の同点に追いつく。そこで大同がタイムアウトを請求するが、前半残り4分半でトヨタ紡織は更に阪、中畠の3連続得点を決め、15 対 12 のトヨタ紡織の3点リードで前半を終える。

後半に大同の速攻が出始め、追撃開始。大同は白の4連続得点などで8分に同点に追いつく。そこからは1～2点差の僅差で試合が進む。ゲーム内容は大同が押しているもののGK が当たらず、単発のシュートが入ってしまう。逆にトヨタ紡織 GK 松野のナイスセーブが光る。点の取り合いで好ゲームが展開され、19 分で 27 対 27 の同点、さらに残り4分で同点と、緊迫した内容に。しかし残り4分をきってから大同は白、山城、千々波で6得点、ゲームを決めた。退場者が両チーム合わせて8人出る、激しい試合であった。紡織は退場者の多さが敗因か。最後まで手に汗握る、プレーオフ準決勝にふさわしい好カードであった。

トヨタ車体　22（11-11, 11-10）21　湧永製薬

プレーオフ男子準決勝2試合目は、レギュラーシーズン2位トヨタ車体と3位湧永製薬の対戦。湧永のスローオフで始まり、先制は車体。No. 19 銘苅の速攻など3連続得点で3対0と好スタートをきるが、湧永もNo. 17 古家のサイドシュートなどですぐ同点。その後は、両チームの GK の好セーブにより、一進一退の攻防が続き、前半 18 分過ぎまで7対7の同点の展開に。20 分過ぎに車体 No. 18 の崎前の連続サイドシュートで9対7と2点リード。しかし、湧永もNo. 23 東長濱のステップシュートやNo. 4 坂本の速攻で追い上げ 11 対 11 の同点で前半終了。



後半に入り、湧永はNo. 13 新のサイドシュートやNo. 15今井のポストシュートで後半7分17対13と4点リード。その後も湧永のペースかと思いきや、車体は GK No. 16 坪根を軸に堅守からの速攻がさえ、No. 19 銘苅のサイドシュートやNo. 13 小沢の速攻で 20 対 21、1点差に追いあげる。そして直後にはNo. 18 崎前の同点シュート、27 分過ぎはNo. 22 門山の逆転シュートが決まり、22 対 21 でトヨタ車体が接戦を制し勝利をおさめた。湧永はレギュラーシーズンのリベンジをはたせなかった。

決勝：3月 21 日（日）

大同特殊鋼　38（19-19, 19-18）37　トヨタ車体

男子決勝は、5連覇を狙う大同と初の決勝進出を果たしたトヨタ車体との対戦となった。車体のフローオフで始まり、先制も車体。No. 19 銘苅のミドルシュートやNo. 5 高智のブラインドシュートなどで前半9分7対3とリード。大同もGK No. 16 東を軸に、固い守りからNo. 4 末松、No. 15 山城の速攻など4連続得点で前半 13 分7対7の同点とする。その後



は、常に車体がリードするが、大同もNo.9武田のロングやNo.20白の個人技などで前半21分13対13の同点。その後、車体は3連続得点でリードするも大同が常に追いつき19対19の同点で前半終了。

後半に入り、大同はNo.20白のミドルシュートで初めてリードする。しかし、車体もNo.8藤田のポスト、No.15鶴谷のサイドなどですかさず逆転し、後半9分、25対23とリード。しかし大同は、13分すぎ車体No.8藤田の退場を期に、No.20白のカットインやNo.4末松のサイドシュートで18分すぎ32対29と逆転する。しかし、車体もNo.18崎前の速攻などで21分すぎ33対33の同点に追いつく。その後は、一進一退の攻防が続き、No.14千々波の得点が決勝点となり、接戦の末、大同が38対37の1点差で5連覇を成し遂げた。

【女　子】

準決勝：3月20日（土）

ソニーセミコンダクタ九州　22（9-10, 13- 8）18　オムロン

レギュラーシーズン2位のオムロンと3位のソニーの一戦、ソニーのスローオフで試合開始。立ち上り、ソニーは緊張のためか、キャッチミス・シュートミスが目立ち、オムロンNo.17東濱のロング、No.8石立のカットイン等でオムロンが4対0とリードした。ソニーはキーパーの好セーブで落ち着きを取り戻し、No.4高橋のサイドからの2連続ゴールで追い上げた。お互いに激しく、高位置のディフェンスで一進一退を繰り返し、前半は10対9のオムロンの1点リードで終了した。

後半開始直後、ソニーは張、長野の連続ゴールで逆転する。しかしオムロンも藤井の2ゴールを含む3連続ゴールで再逆転する。後半9分、15対12とオムロンがリードしていたが、ソニーNo.1 GK中島の好セーブが起爆剤となり、ソニーが連続ゴールなどで徐々に追い上げる。17分、ソニーはNo.5田中のサイドからのゴールで逆転に成功。そのまま速攻、ポストと多彩な攻めでオムロンを引き離し、ソニーが逃げ切った。双方、GKが好セーブを連発し、引き締まった好ゲームとなった。



決勝：3月21日（日）

ソニーセミコンダクタ九州　25（13-15, 12- 9）24　北國銀行



悲願の初優勝を狙う両チーム。試合の幕開けは北國のエース・上町のロングによる2連取。ソニーの鮮やかなスカイプレーと持ち味を出して始まった。北國は固いDFで5分に3対1とリード。ソニーは昨日から好調のNo.4高橋の速攻やGK飛田のファインセーブで7分に4対3と逆転。ソニーのカットインを北國が守れずに罰則が出る。北國はNo.18若松の的確なサイドシュートで同点とする。北國No.6佐久川の投入で流れが変わり、ソニーDFの足が止まるところを北國がカットインで切りさき、18分9対8と再逆転する。前半は15対13と北國リードで折り返す。ソニーは前半8得点の高橋の活躍が光った。

後半、北國がNo.4上町の得点やGK田代の好セーブで流れをつかみ、7分20対15と5点差をつける。両チームともディフェンスの足がよく動き、オフェンスでは小気味よくボールを回し、緊迫したゲームが続く。ソニーはNo.1中島・No.12飛田、両GKの好守により追撃開始。18分に22対22と同点。その後北國が2連取し24対22とする。北國に退場者が2人出て、DF 4人のピンチをGK田代が好セーブで助けるものの、26分に24対24の同点となる。残り1分、北國のベンチが動き、同点の局面でタイムアウト。最後の指示をするが、残り30秒ソニーNo.4高橋が本日14得点目となるゴールで勝ち越し。試合はそのままソニーが1点差で逃げ切り、歓喜の初優勝を飾った。



第 34 回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了

【男　子】

順　位		大　同	車　体	湧　永	紡　織	大　崎	合　成	琉　球	北　電	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	大　同 特殊鋼		30 27 ○ △ 23 27	32 29 ○ ○ 26 25	35 28 ○ ● 29 29	24 27 ○ ○ 19 24	48 40 ○ ○ 24 19	37 35 ○ ○ 19 24	36 40 ○ ○ 23 24	14	12	1	1	468	335	133	25
2.	トヨタ 車　体	27 23 △ ● 27 30		32 33 ○ ○ 30 26	27 31 ● ○ 28 30	30 25 ○ ● 22 36	40 30 ○ ○ 17 24	30 33 ○ ○ 27 23	28 30 ○ ○ 17 23	14	10	1	3	419	360	59	21
3.	湧永製薬	25 26 ● ● 29 32	26 30 ● ● 33 32		34 23 ○ △ 31 23	28 27 ○ ○ 21 25	39 31 ○ ○ 23 20	37 41 ○ ○ 26 21	35 33 ○ ○ 17 16	14	9	1	4	435	349	86	19
4.	トヨタ 紡織九州	29 29 ○ ● 28 35	30 28 ● ○ 31 27	23 31 △ ● 23 34		26 30 ● △ 28 30	37 40 ○ ○ 27 21	29 36 ○ ○ 24 28	32 30 ○ ○ 23 23	14	8	2	4	430	382	48	18
5.	大崎電気	24 19 ● ● 27 24	36 22 ○ ● 25 30	25 21 ● ● 27 28	30 28 △ ○ 30 26		43 30 ○ ○ 18 19	34 34 ○ ○ 27 27	24 28 ○ ○ 18 24	14	8	1	5	398	350	48	17
6.	豊田合成	19 24 ● ● 40 48	24 17 ● ● 30 40	20 23 ● ● 31 39	21 27 ● ● 40 37	19 18 ● ● 30 43		33 22 ○ △ 29 22	22 24 △ ○ 22 17	14	2	2	10	313	468	-155	6
7.	琉　球 コラソン	24 19 ● ● 35 37	23 27 ● ● 33 30	21 26 ● ● 41 37	28 24 ● ● 36 29	27 27 ● ● 34 34	22 29 △ ● 22 33		27 33 ○ ○ 18 29	14	2	1	11	357	448	-91	5
8.	北陸電力	24 23 ● ● 40 36	23 17 ● ● 30 28	16 17 ● ● 33 35	23 23 ● ● 30 32	24 18 ● ● 28 24	17 22 ● △ 24 22	29 18 ● ● 33 27		14	0	1	13	294	422	-128	1

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表し、左側がホーム、右側がアウェイの結果を表す。

【女　子】

順　位		北國銀行	オムロン	ソ ニ ー	メイプル	三　重	HC 名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北國銀行		30 19 24 ○ ● △ 25 21 24	33 23 31 ○ ● ○ 27 31 24	34 31 26 ○ ○ ○ 28 22 23	29 30 22 ○ ○ ○ 21 18 14	37 31 27 ○ ○ ○ 16 15 14	15	12	1	2	427	323	104	25
2.	オムロン	25 21 24 ● ○ △ 30 19 24		27 36 24 ● ○ ○ 28 21 22	33 36 34 ○ ○ ○ 17 15 21	23 28 27 ○ ○ ○ 16 19 20	40 37 33 ○ ○ ○ 11 14 12	15	12	1	2	448	289	159	25
3.	ソニーセミ コンダクタ 九州	27 31 24 ● ○ ● 33 23 31	28 21 22 ○ ● ● 27 36 24		45 39 31 ○ ○ ○ 26 24 29	32 35 31 ○ ○ ○ 20 28 25	42 42 34 ○ ○ ○ 15 20 21	15	11	0	4	484	382	102	22
4.	広島 メイプル レッズ	28 22 23 ● ● ● 34 31 26	17 15 21 ● ● ● 33 36 34	26 24 29 ● ● ● 45 39 31		28 15 19 ○ ● ○ 27 21 16	36 33 32 ○ ○ ○ 20 13 18	15	5	0	10	368	424	-56	10
5.	三重 バイオレッ トアイリス	21 18 14 ● ● ● 29 30 22	16 19 20 ● ● ● 23 28 27	20 28 25 ● ● ● 32 35 31	27 21 16 ● ○ ● 28 15 19		30 31 27 ○ ○ ○ 15 16 13	15	4	0	11	333	363	-30	8
6.	ＨＣ名古屋	16 15 14 ● ● ● 37 31 27	11 14 12 ● ● ● 40 37 33	15 20 21 ● ● ● 42 42 34	20 13 18 ● ● ● 36 33 32	15 16 13 ● ● ● 30 31 27		15	0	0	15	233	512	-279	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

個人表彰

＜男子＞

■最優秀監督賞……清水　博之（大同特殊鋼）３回目
■最高殊勲選手賞……白　元喆（大同特殊鋼）３回目
■殊勲選手賞……銘苅　淳（トヨタ車体）初
■得点王……末松　誠（大同特殊鋼）107 点　３回目
■フィールド得点賞……末松　誠（大同特殊鋼）96 点　２回目
■シュート率賞……末松　誠（大同特殊鋼）0.691　２回目
■７mスロー得点賞……銘苅　淳（トヨタ車体）28 点　初
■７mスロー阻止率賞……坪根　敏宏（トヨタ車体）0.529（9/17）　初
■最優秀選手賞……末松　誠（大同特殊鋼）３回目
■最優秀新人賞……谷村　遼太（湧永製薬）
■ベストセブン
　ＧＫ　高木　尚（大同特殊鋼）３回目
　ＣＰ　門山　哲也（トヨタ車体）初
　ＣＰ　末松　誠（大同特殊鋼）３回目
　ＣＰ　東長濱　秀作（湧永製薬）初
　ＣＰ　白　元喆（大同特殊鋼）７回目
　ＣＰ　村上　秀行（トヨタ紡織九州）２回目
　ＣＰ　豊田　賢治（大崎電気）４回目
■ベストディフェンダー賞……武田　享（大同特殊鋼）２回目
■フェアプレー賞……トヨタ車体　91 点／ 14 試合（6.5 点／試合）

＜女子＞

■最優秀監督賞……郭　恵静（ソニーセミコンダクタ九州）初
■最高殊勲選手賞……髙橋　恵（ソニーセミコンダクタ九州）初
■殊勲選手賞……横嶋　かおる（北國銀行）初
■得点王……上町　史織（北國銀行）135 点　２回目
■フィールド得点賞……郭　恵静（ソニーセミコンダクタ九州）104 点　７回目
■シュート率賞……高栖　由香（ソニーセミコンダクタ九州）0.841　初
■７mスロー得点賞……上町　史織（北國銀行）44 点　２回目
■７mスロー阻止率賞……家城　千香（ＨＣ名古屋）0.485（16/33）　初
■最優秀選手賞……上町　史織（北國銀行）　２回目
■最優秀新人賞……髙橋　恵（ソニーセミコンダクタ九州）
■ベストセブン
　ＧＫ　田代　ひろみ（北國銀行）２回目
　ＣＰ　洪　廷昊（オムロン）３回目
　ＣＰ　髙橋　恵（ソニーセミコンダクタ九州）初
　ＣＰ　横嶋　かおる（北國銀行）３回目
　ＣＰ　上町　史織（北國銀行）３回目
　ＣＰ　藤井　紫緒（オムロン）初
　ＣＰ　城内　真紀　（オムロン）２回目
■ベストディフェンダー賞……中村　香理（北國銀行）　初
■フェアプレー賞……ＨＣ名古屋　74 点／ 15 試合（4.9 点／試合）


今回の会場は、東京体育館




トヨタ車体を応援する
「知立ハンドボール教室」の皆さんからの声援



横浜創英中高等学校・ダンス部による、華麗なハーフタイムショー




殊勲選手賞の北國銀行：横嶋選手


ソニーセミコンダクタ九州：記者会見の郭 HC


飛田キャプテン


MVP の高橋選手



男子決勝審判：檜﨑・池渕ペア



女子：決勝審判　浜田・小笠原ペア


大同特殊鋼：記者会見の清水監督


高木キャプテン


MVP の白選手


殊勲選手賞のトヨタ車体：銘苅選手

第33回 全国高等学校ハンドボール選抜大会



総　評

岩手県ハンドボール協会理事長（大会実行委員長）　岡市　武

「イーハトーブの風に乗り　花巻く世界へ君は翔ぶ」の大会スローガンのもと、花巻市総合体育館において、オープニングイベント「宮崎大輔選手のビデオメッセージ」、「北上翔南高校の鬼剣舞」、「花巻市立桜台小学校４年生134人による合唱と『雨ニモマケズ』詩の朗読」で、全国９ブロックを勝ち抜いてきた80チームの選手、監督、役員をお迎えし、大会の幕を開けました。大会は、宮沢賢治ゆかりの地であり温泉の町である花巻市で、３月25日から30日までの６日間開催されました。

荒れる春を象徴するかのように、ベスト４に残ったシード校は男女とも１チームという目が離せない試合が相次ぎました。その中で、男子は香川中央高校（香川県）が、準々決勝の興南高校（沖縄県）戦で逆転勝ちを収め、準決勝では地元期待の不来方高校（岩手県）を前半中盤よりGKを中心とした堅い守りと多彩な攻撃で圧倒し決勝に進出しました。決勝の対戦相手は、準決勝で岩国工業高校（山口県）を接戦で破り、シード校で唯一勝ち上がった愛知高校（愛知県）でした。香川中央高校は、決勝においても最優秀選手賞に輝いた内海祐輔選手を中心としたスピードある攻撃を展開し、コンビプレーと個人技を織り交ぜて着実に得点を重ね、16年ぶり２回目の優勝を遂げました。

女子のベスト４は、大差で勝ち上がってきた第一シード洛北高校（京都府）、準々決勝で浦和実業学園高校（埼玉県）との接戦を制した四天王寺高校（大阪府）、同じく埼玉栄高校（埼玉県）に逆転勝ちした華陵高校（山口県）、ここまで接戦を勝ち上がってきた文化女子大学附属杉並高校（東京都）の４チームでした。準決勝の２試合はともに大接戦でした。前評判の高かった２チームの四天王寺高校と洛北高校の試合は終盤までもつれ、四天王寺高校が残り９秒に阿久田選手が決勝点を挙げ決勝進出を果たしました。もう一試合の華陵高校対文化女子大学附属杉並高校の試合もシーソーゲームになり、残り４分を切って勝ち越した華陵高校がすぐさま追加点を奪い、残り２分を切って１点差とされながら逃げ切り決勝へ駒を進めました。決勝は四天王寺高校が、GK濱田を中心とした堅い守りとリズムの良い攻撃で得点を重ね、18年ぶり２回目の優勝を遂げました。

男子は、香川県立香川中央高等学校が16年ぶり２度目の優勝
女子は、四天王寺高等学校（大阪）が18年ぶり２度目の優勝

最終順位

［男子］
優　勝：香川県立香川中央高等学校
準優勝：愛知高等学校
３　位：山口県立岩国工業高等学校
　　　　岩手県立不来方高等学校

［女子］
優　勝：四天王寺高等学校（大阪）
準優勝：山口県立華陵高等学校
３　位：京都府立洛北高等学校
　　　　文化女子大学附属杉並高等学校（東京）



今大会では、岩手県体育協会医・科学委員会トレーナー部会の支援により医・科学サポートを各会場に配置し、選手と審判員のコンディショニングに多大な貢献をしていただきました。また、（財）日本アンチ・ドーピング機構（JADA）アウトリーチ・プログラムのブースを25～27日までの３日間開設し、小野多恵子マネージャー、フェンシング日本代表池田めぐみ選手、ハンドボール日本代表銘苅淳選手の３名に教育啓発活動を展開していただきました（詳細は全国高体連ジャーナル2009 vol.17～（（財）全国高等学校体育連盟発行）６回の連載を参照願います）。他にも、大会を盛り上げるために下記の企画を展開しました。

■トークイベントとお楽しみ抽選会：
①酒巻清治監督による「世界選手権大会出場おめでとう」
②上町史織選手と齊藤凌選手（2009JOCオリンピック有望選手）「ロンドンオリンピックを目指して」
■パブリックビューイング：大型モニターで日本リーグプレーオフ等を放映。
■小中高生対象クリニック：上町選手と銘苅選手の指導風景をテレビ局が生放送。

競技の見所と共に、前述の企画を事前にプレス・リリースしたことや、一カ月前からテレビでスポット放送していただいた宣伝効果もあり、関係者以外にも多くの観客に会場に足を運んでいただくことができたと共に、連日、メディアでハンドボールの醍醐味と魅力を報道していただくことができたことを大変嬉しく思っております。

平年より気温が低く、真冬を思わせるような寒さの中で試合をした選手、監督、役員、審判員、大会役員、補助員の皆様、また、応援してくださった保護者、チーム関係者の皆様には、大変辛い思いをさせてしまったことと、ご不便をおかけしたことが多々ありましたことを深くお詫び申し上げます。

結びに、開催にあたりご支援、ご協力賜りました（財）日本協会、（財）全国高体連専門部、東北協会、協賛各社、花巻市、岩手県協会、岩手県高体連専門部を中心とした県内関係者、補助員、遠路はるばる応援に駆けつけてくださった保護者等チーム関係の皆様、連日熱戦の模様を報道していただきましたメディア関係の皆様に、衷心より感謝を申し上げますとともに、来る「美ら島総体（沖縄）」の成功を祈念し、総評とさせていただきます。

戦評

男　子

[準決勝]

愛知高校　21（9－11、12－8）19　岩国工業高校

岩国工業のスローオフで開始。先制点は愛知が速攻から7番柳が豪快なロングシュートを決めた。岩国工業も速いパス回しから2番河本がポストシュートを決め、すぐに同点とした。その後は多彩なシュートからミドル・ロングを確実に決めた主将でエースの3番久保を擁する岩国工業に対し、愛知も21番宮地を中心に得点を重ねた。しかし両チームともDFは堅く9対11のロースコアで前半を終えた。

後半、愛知は相手のロングシュートに対し高いDFを仕掛ける。それに対し、岩国工業は13番角田のカットイン、2番河本のポストプレーなどでチームを引っ張る。追い上げたい愛知はGK成瀬の好セーブからの速攻を確実に決め、後半15分には11番服部のロングシュートでついに15対14と逆転。その後もリードを守り抜いた愛知が21対19で岩国工業を下し、決勝進出。

香川中央高校　34（16－9、18－13）22　不来方高校

両チーム互いに高い個人技で得点を挙げ、互角の立ち上がりを見せる。中盤、香川中央が6番内海のスピードに乗ったロングシュートや巧みなポストプレーで4連取し、主導権を握る。16分に不来方が退場者を出すと2番鎌野の7mTや速攻などでさらに4連取し、前半を16対9で終える。

後半に入っても個人技に勝る香川中央は3番矢田、8番佐藤らが軽快に得点を重ねる。対する不来方も5番森田、4番吉田らを中心に反撃するも、最後は地力に勝る香川中央が34対22で勝利した。

[決勝]

香川中央学校　33（19－13、14－12）25　愛知高校

先制したのは愛知20番赤岩のポストシュート、すかさず香川6番内海がロングシュートを決める。序盤は一進一退の攻防を繰りひろげていたが、中盤に流れを掴んだのは香川。速攻を皮切りに5連取と勢いに乗る。一方、愛知も離されまいと21番宮地のロングシュート、20番赤岩のポストシュートなどで粘りを見せるが、前半は19対13の香川リードで折り返した。

後半、流れを変えたい愛知はDFシステムを変え、高いDFを敷く。このDFが機能し始め、後半残り10分から追い上げを見せる。しかし、前半の点差を縮めるにはいたらず、終始攻防の手を緩めなかった香川が33対25で勝利し、2回目の優勝を果たした。



女　子

[準決勝]

四天王寺高校　19（11－8、8－10）18　洛北高校

18年振り2回目の優勝を狙う四天王寺と2年振り4回目の優勝を狙う洛北の近畿ブロック代表同士の顔合わせ。前半立ち上がりは両者とも堅さが見られたが、四天王寺25番前の速攻を皮切りに、29番竹下のポストプレーや速攻を確実

に決めると、対する洛北は 6 番太刀川のサイドシュート、4 番岸本の豪快なロングシュートなどで反撃し、一進一退の攻防が続いた。抜け出たのは 28 番阿久田、29 番竹下、24 番水田の 3 連取を成功させた四天王寺で、前半を 11 対 8 と 3 点リードで折り返した。

後半も前半同様両者共に堅い守りからの速攻や緻密なセットプレーを繰り広げ、後半 28 分過ぎまでは同点。手に汗握る展開に延長突入かと思われたが、残り 9 秒に決勝点を四天王寺 28 番阿久田が挙げ、四天王寺が決勝進出を果たした。

華陵高校　25（11 － 12、14 － 12）24　文化女子大附属杉並高校

女子準決勝第 2 試合、立ち上がりは文大杉並が 7 番関根らの速攻でリードを奪うが、華陵は右バックプレーヤー 10 番築山の連続カットインシュートなどで 4 連取し逆転に成功する。華陵リードで試合は進むが、前半終盤文大杉並が 5 番伊藤の速攻とカットインシュートで逆転し、12 対 11 の文大杉並リードで前半を終える。

後半開始早々、再び華陵は 7 番河野、9 番高松の得点で逆転する。直後に退場者を出してしまい、逆に 4 連取され 2 点差とされる。このまま文大杉並が逃げ切れるかと思われたが、終盤 26 分に退場者を出した上、華陵に 7 mT を与えてしまう。これを 8 番山根が落ち着いて決め同点とすると、直後に華陵 2 番岡田のカットインシュートで逆転する。文大杉並も 2 番中村のロングシュートで追いすがろうとするが、最後は華陵が必死の DF で得点を許さず、決勝への切符を手にした。

[決勝]

四天王寺高校　24（12 － 4、12 － 8）12　華陵高校

18 年振り 2 回目の優勝を狙う四天王寺と初優勝を狙う華陵の対戦は、華陵のスローオフで開始した。四天王寺は GK 濱田を中心とした堅い DF で華陵に得点を許さず、24 番水田のミドルシュートや 27 番前田の速攻、29 番竹下のポストプレーで 10 分までに 5 対 0 と突き放す。一方、華陵はタイムアウトをきっかけに 8 番山根のロングシュートや速攻で巻き返しを図るが、再三のシュートチャンスをものにすることができないまま 12 対 4 で前半を終える。



後半に入っても四天王寺の猛攻は止まらず、リズムの良い攻撃で得点を重ねる。15 分過ぎから華陵はプレス DF を仕掛け、勝負に出るが地力に勝る四天王寺が 24 対 12 で 18 年振りの優勝を手にした。

表彰選手

【男子】	【女子】
■最優秀選手	■最優秀選手
内海　祐輔（香川中央・2 年）	竹下　佳慧（四天王寺・2 年）
■優秀選手	■優秀選手
村上　凌太（香川中央・2 年）	高宮　咲　（文大杉並・2 年）
芳村　優太（愛知・2 年）	太刀川　明（洛北・1 年）
久保二千笑（岩国工業・2 年）	茶園　遥　（高松商業・2 年）
森田　啓亮（不来方・2 年）	水田亜莉沙（四天王寺・2 年）
仲程　海渡（興南・2 年）	倉谷　星歌（華陵・2 年）
角田　雄太（岩国工業・1 年）	角南　果帆（洛北・2 年）
中野　兼誠（小林秀峰・2 年）	中村　光代（文大杉並・2 年）
■有望選手	■有望選手
東江　雄斗（興南・1 年）	福井亜由美（神埼清明・2 年）

女子優勝：四天王寺高等学校（大阪府）

選抜大会優勝の御礼

四天王寺高校ハンドボール部監督　**繁田 順子**

平成 21 年度第 33 回全国高等学校ハンドボール選抜大会に優勝することができ大変うれしく思っています。微力な私達がこの様な結果を残せたのも偏に学校関係者、大阪ハンドボール協会及び高体連、中体連の先生方、保護者や OG、そして沢山のお世話になった方々のお陰と厚く御礼申し上げます。

今年はチーム創りが大変遅れ府予選では２位、近畿予選も５位通過というぎりぎりの状態での本大会出場権獲得でした。個人技は勿論のことチームとしても課題が山積し不安を抱えての中、選手達との約束事は、「苦戦を覚悟し、どんな状況でも我慢しよう。そして一つでも多く試合を経験しよう」ということでした。主将水田亜莉沙の掛け声にみんながうなずきお互いの気持ちを確かめ合い、副将竹下佳慧（結果的には最優秀選手を頂く）は自らを鼓舞し大会に臨みました。案の定、試合は苦戦に継ぐ苦戦でいつ負けてもおかしくない状態でしたが苦しい時にも全員がよく我慢し、みんなで支えあい凌ぎました。最終戦まで戦えた喜びと優勝という栄冠を得たことは今後の彼女達の成長に繋がるものと確信致します。

顧みれば学校事情で部活動停止宣告を受け活動停止したのが平成 11 年。悔しい思いの中で全国のハンドボーラーに助けられ３年間のブランクを経て再スタートし、新生四天王寺が全国大会出場を果たしたのが平成 16 年３月神奈川県でのこの選抜大会でした。今年３月に大学を卒業した子供達が一年生だけで戦い開会式後すぐの第一試合というおまけつき。緊張で何が何だか分からないまま気がつけば初戦敗退という苦いデビュー戦でした。あれから６年。今回の優勝は辛い思いをした数多くの先輩達の後押しによって達成させて頂いたものと只只感謝するのみです。

また、岩手県大会の記念すべき初年度に優勝させて頂く事ができ、中島昭博先生を始め県関係者の皆様・補助役員をして下さった高校生の皆様に心から御礼申し上げます。大会開催にあたり細部に渡る準備と至れり尽くせりの歓迎に選手達は思いっきりプレーすることができました。TV や新聞等マスコミ報道への対応、またプロアナウンサーによる館内インタビューは慣れない事とは言えうれしいような、恥ずかしいような…でもやっぱりうれしい！　大変励みになる経験でした。また、特筆すべきは全日本活動を積極的にアピールされた事でした。大会出場の選手のみならず地元の小・中学生にも夢を与えて下さいました。酒巻全日本監督や全日本選手の来県。そして、先月２月に決定した男子世界選手権出場の速報をプログラムに掲載されたことも「すごい」の一言でした。３月の今大会にはどう考えてもタイムリミット寸前であったであろうし徹夜の校正も想像できる中、その思いはひしひしと伝わってきました。皆様方の熱意と中島先生らしい「ひらめき」に改めて御礼申し上げます。

私達のチームは今スタートしたばかりです。決して今回の結果におごることなく更なる努力を続けてまいります。今後共よろしくお願い申し上げ御礼とさせて頂きます。ありがとうございました。

新チームのスタート

四天王寺高校ハンドボール部主将　**水田 亜莉沙**

私達は沢山の方々に支えて頂き、応援してもらい、選抜大





写真提供：スポーツイベント社

会優勝というすばらしい成績を残すことができました。昨年の京都インターハイでは、先輩方のお陰で全国制覇という貴重な経験をさせて頂き、また自分達の代でも「勝ちたい」という気持ちがとても強く、負けないチームを目標に日々頑張ってきました。

国体が終わり、本格的に新チームでの練習がスタートしたのは 10 月からでした。大阪予選決勝では 2 点差で敗れ、自分達の力不足を痛感し、いかに先輩方に頼りきっていたか自分達の甘さを知らされました。府予選での反省を生かし、ディフェンスの戻りと速攻を中心に強化していきました。近畿予選も突破することができ、選抜大会に向け体づくりや基礎練習を繰り返し取り組んできました。

初戦の飛騨高山戦から自分達のリズムで試合運びができず、ミスの連続で苦しい展開となってしまいましたが、ディフェンスで集中し粘ることができ、一戦一戦勝ち進むことができました。

攻撃は、決めなければならないところでシュートを何本も落とし、自分達の心の弱さが出てしまいました。技術面では、すぐには変わることはできないが、気持ち・心の部分は自分次第でいくらでも変わることができるということ（大阪イーグルス村田先生のお教え）を頭に入れ、夏に向けてもう一度技術面は勿論どんな状況でも動じることのない精神力を身につけていきたいです。

力を貸して頂いた卒業生や大学生の先輩方、本当にありがとうございました。沢山の方々にサポートして頂き優勝することができたこと。感謝の気持ちを忘れず繁田先生・白鳥先生のご指導のもと春・夏連覇を目指し頑張っていきたいと思います。これからも応援よろしくお願い致します。

男子優勝：県立香川中央高等学校（香川県）

全国高校選抜大会を振り返って

県立香川中央高校男子ハンドボール部監督　河合　哲

この度は、第 33 回全国高等学校ハンドボール選抜大会において、優勝することができ大変うれしく思っております。これもひとえに日頃よりご支援、ご協力いただいております学校関係者の方々、県協会、県体育協会、県高体連の方々、保護者、後援会、OB の方々のおかげであると深く感謝しております。誠にありがとうございました。

今年のチームは飛び抜けた選手はいないものの、昨年から全国大会を経験した選手が多く残り、練習試合や公式戦での不安定な試合が少ないチームであると感じていました。しかし、シュート力を含めたオフェンス、まだまだ形にならないデフェンスなどの不安はなかなかぬぐえないまま大会に臨みました。大会では様々なアクシデントもありましたが、チームは落ち着いて自分たちの攻撃をすることができ、不安だったディフェンスも試合を重ねるごとに安定し持ち味を発揮することができました。

決勝戦では、練習試合を何度もしている愛知高校との対戦となりました。スピードとテクニックのある愛知高校をなんとか粘り強く守ることができ、優勝することができました。

最後になりましたが、この優勝にたどり着くまでに、多くのチームの先生方に練習試合・合宿をさせていただき、多くのことを学ぶ機会をいただきました。その合宿の成果をやっと結果に変えることができました。本当に感謝しております。

また、今大会で運営にあたられた大会関係者、役員の皆様、会場で応援してくださった皆様には心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。





「新たな挑戦の始まり」
第１回チャレンジ・ディビジョン

日本ハンドボールリーグ機構
リーグ委員
冨森達人

長期にわたる不況の影響を受け、スポーツ界には廃部や休部が相次ぎ、2009年春、ハンドボール界でもHonda、トヨタ自動車といった日本リーグ勢が表舞台から姿を消しました。この逆風は周期的に訪れ、その度に社会人スポーツも犠牲となってきました。競技者達は、避けられないことと覚悟していても、活動の場を無くすことに怯えて過ごしています。「繰り返される苦境に、このまま黙っていてはいけない、今こそ勇気をもって新しいことに挑戦するチャンスにしなければならない」、「各地域が育ててくれた競技者が、社会人になってプレーする場所が無いでは、普及に尽力されている方々に申し訳が立たない」。市原日本リーグ機構会長の熱い思いが号令となり、リーグ機構はトップリーグと異なるチャレンジ・ディビジョンを立ち上げました。

チャレンジ・ディビジョンは、社会人チームの新たな活動の場となるだけではなく、停滞する社会人のカテゴリーに新風を吹き込み、より高いレベルの公式試合数を増やすことでチームの強化を促進し、参加する企業チーム、クラブチーム、国体チーム、学生チームが、カテゴリーを越えて切磋琢磨しながらレベル向上ができる、新しいカテゴリーとなります。

2009年５月１７日、チャレンジ・ディビジョンの説明会を名古屋で開催しました。企業チーム、クラブチーム、国体チーム、大学生チームの総勢16チームが集まった説明会では、「社会人チームの強化」「カテゴリーを越えて戦える場を造る」という趣旨説明と、秋に開幕させる暫定日程を含めた大会要項が提示されました。果たして正式に参加を決めてくれるチームがあるだろうかと祈るような日々が続きましたが、参加回答期限までに11チームの参加申請を受け、我々に安堵の思いが広まりました。当然のことながら全国レベルでの認知度はまだ低く、各地域へ大会の趣旨も十分に伝えきれない中で進める大会準備は難航を極めましたが、きっと面白い大会になるという期待感と、少しでも高いレベルで、１試合でも多く試合をしたいという参加チームの熱い想いが後押しとなり、我々はただひたすら奔走しました。東海地区を中心に東西に分けた１回戦総当りと順位決定戦の試合日程は、各カテゴリーの大会日程を縫うように割り振られ、且つ、各チームの移動にかかる負担を少しでも軽減できるよう配慮を加えました。

10月31日、いよいよ開幕のその日、立ち上げが決まった春から実に多くの方々に支えられてきたことに感謝の思いが溢れ、そして参加チームの新たな挑戦が始まることに期待が高まり、第１回チャレンジ・ディビジョンの開幕をこの上なく清々しい気持ちで迎えました。東西それぞれのリーグ戦は接戦の好ゲームが続き、ひとりのハンドボールファンとしても毎試合楽しみとなっていました。リーグ戦を終えた東西の順位も僅かな得失点差で決まるほど各チームの実力差は少なく、東西の全チームが揃う順位決定戦も全く予想のつかない状況となっていました。また、他県から生徒を連れて応援に来てくれる先生や、トップリーグ同様に声援してくれる女性ファンなど、多くのハンドボールファンの方々が試合を楽しみに来ていただけたことは、とても嬉しく思いました。

昨年は、どの競技も新型インフルエンザの影響を受けたことと思います。チャレンジ・ディビジョンも４試合を延期しました。常識的には中止とすべきところを延期としたのは、公式試合数増をひとつの目的とした大会であるため、容易に中止や不戦勝とするわけにはいかないという思いからでした。幸いにも各チームの賛同と協力を得て日程の再調整を行い、延期した４試合中の３試合を実施することができました。ここでも、各チームの「試合をやりたい」という気持ちを強く感じることができました。

２月末、愛知県豊田市の会場において、東西それぞれの１位、２位のみで行う決勝トーナメントと、３位以下の全チームで最終順位を争う順位決定トーナメントを開催し、２日間

で 14 試合を実施しました。東西のリーグ戦以上に白熱した試合を目の前にして、このカテゴリーを立ち上げて本当に良かった、そして、続けていかなければいけないと強く感じました。大会は千葉県の FOG が Honda、トヨタ自動車との接戦を制し優勝しました。指揮官以下、統制の取れた良いチームで、地元で開催される千葉国体に向け、これからも強くなる注目のチームです。

全国大会としての運営や各チームが参加するカテゴリーで効果を出せる試合日程など、課題をひとつひとつ解決し、より価値のある大会に成長させ、社会人チームの発展に貢献できるよう努めていきます。

末尾となりましたが、試合会場の提供やレフェリーの派遣、試合運営を快く引き受けていただいた企業、大学、地方協会などチャレンジ・ディビジョンを支えていただいた多くの皆様と、暖かい応援をしていただいたハンドボールファンの皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【東地区】星取表

	順位	トヨ	FOG	セン	大同	岐阜	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	トヨタ自動車		30 ○ 27	25 ○ 22	28 ○ 22	31 ○ 19	4	4	0	0	114	90	24	8
2.	FOG	27 ● 30		28 ○ 23	26 ○ 23	30 ○ 22	4	3	0	1	111	98	13	6
3.	セントラル自動車	22 ● 25	23 ● 28		26 ○ 22	25 ● 27	4	1	0	3	96	102	-6	2
4.	大同大学	22 ● 28	23 ● 26	22 ● 26		28 ○ 22	4	1	0	3	95	102	-7	2
5.	ＨＣ岐阜	19 ● 31	22 ● 30	27 ○ 25	22 ● 28		4	1	0	3	90	114	-24	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

【西地区】星取表

	順位	Hond	MKA	山口	高松	八光	徳山	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	Honda		31 ○ 25	30 ○ 26	28 ○ 21	33 ○ 22	45 ○ 25	5	5	0	0	167	119	48	10
2.	ＨＣＭＫＡ	25 ● 31		27 ○ 23	28 ○ 17	23 ● 27	30 ○ 19	5	3	0	2	133	117	16	6
3.	ＨＣ山口	26 ● 30	23 ● 27		42 ○ 30	30 ○ 25	28 ○ 26	5	3	0	2	149	138	11	6
4.	高松大学	21 ● 28	17 ● 28	30 ● 42		29 ○ 25	14 ○ 0	5	2	0	3	111	123	-12	4
5.	八光自動車	22 ● 33	27 ○ 23	25 ● 30	25 ● 29		29 ○ 24	5	2	0	3	128	139	-11	4
6.	徳山クラブ	25 ● 45	19 ● 30	26 ● 28	0 ● 14	24 ● 29		5	0	0	5	94	146	-52	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

第１回チャレンジ・ディビジョン順位決定戦

▼順位決定１回戦
ＨＣ岐阜　42（22 ― 12、20 ― 15）27　高松大学
大同大学　30（13 ― 13、17 ― 12）25　八光自動車
徳山クラブ　29（12 ― 11、17 ― 13）24　セントラル自動車

▼順位決定２回戦
ＨＣ山口　36（16 ― 16、20 ― 14）30　ＨＣ岐阜
大同大学　33（18 ― 9、15 ― 12）21　徳山クラブ

▼９－11 位決定リーグ
セントラル自動車　38（23 ― 20、15 ― 15）35　高松大学
高松大学　31（13 ― 16、18 ― 9）25　八光自動車
セントラル自動車　35（15 ― 13、20 ― 11）24　八光自動車

▼７－８位決定戦
ＨＣ岐阜　36（17 ― 11、19 ― 18）29　徳山クラブ

▼５－６位決定戦
ＨＣ山口　31（17 ― 10、14 ― 14）24　大同大学

▼準決勝
トヨタ自動車　38（16 ― 8、22 ― 9）17　ＨＣＭＫＡ
ＦＯＧ　28（18 ― 10、10 ― 16）26　Honda

▼３－４位決定戦
Honda　43（20 ― 6、23 ― 7）13 ＨＣＭＫＡ

▼決勝戦
ＦＯＧ　33（18 ― 16、15 ― 13）29 トヨタ自動車

試合会場：トヨタスポーツセンター第１体育館

試合形式：東西上位２チームによる決勝トーナメントと東西３位以下のチームによる順位決定トーナメントおよび９位決定リーグ

【順位表】
１位　FOG
２位　トヨタ自動車
３位　Honda
４位　HC MKA
５位　HC 山口
６位　大同大学
７位　HC 岐阜
８位　徳山クラブ
９位　セントラル自動車
10 位　高松大学
11 位　八光自動車

～「国母ルール」寂しい～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

バンクーバー五輪スノーボード・ハーフパイプ代表、国母和弘選手の乱れ服装が批判を受けたが、その影響が日本スキー連盟に及んだ。再発防止策として、代表規範を制定するという。さらに日本代表だけでなく、強化指定選手すべてに"誓約書"の提出を求めていくというのは異例だ。

それによると「国母ルール」は公の場で服装や身だしなみを整えることに加え、ピアス、茶髪などの禁止も盛り込まれている。協会側は「選手は若者の規範であるべき。行動や言葉づかいを常識的な範囲でやってほしい」と言う。

そうした中、スノーボード綿谷直樹チーフコーチを日本オリンピック委員会専任コーチから外すことを決めた、笠谷幸生強化本部長も国母問題に加え、2大会連続メダルなしの反省も含めて辞表を提出した。

これほどの影響が出たことを国母選手自身は、どのように受け止めているかは分からないが、その後の言動からして、あまり反省しているという意識は持ち合わせていないのではと思われる。

それはともかく、各競技団体の役員と選手間の意識感覚の"ズレ"を感じる。"自由"を尊ぶ選手には、役員の考え方、思い方を逆に"なんで"と思うのではないだろうか。

かつてサッカー指導者として日本のクラブを育成したバクスター監督が、こんな話をしたことがある。

「日本人は世界で最もディシプリン（規律）を守る国民。それを意識してチームづくりをする」

それを実践して結果を出したが、果たして今、そうした指導をしたとすると、果たして選手は納得するだろうか。

それほど、当時と現在では考え方はもちろん、日常生活でも変化が起きているのは間違いないところである。

トップアスリートは、それぞれの日常において苦しい練習を積んでいるが、練習から離れたところでも多くの人たちから視線を注がれていることを忘れてはなるまい。子どもたちから憧れられることも責任の一つであろう。その点を選手だけでなく、指導者も胸に刻むべきであろう。それが出来ていれば今回の騒ぎに発展することはなかったのではないだろうか。

そもそも規則は守るためにあるが、競技面はともかく、服装や言動に関しては、規範とかでなく各自が判断していくものだろう。それがトップアスリートの証明でもあるのではないだろうか。世間の目が注目している時はなお、そうしたことが重要である。今回の「規範」制定をしなくてはならない事態は悲しい。協会も選手も人間としての"成長"を肝に銘じるべきだろう。

JADMA®
(社)日本通信販売協会会員



6カ月間洗浄がいらない PREMIUM ドクター・水素水®

多くのアスリートや
スポーツ愛好家の
方々にも愛飲されて
います。





※日本国特許第4252434号
※アメリカ合衆国特許番号:USP 7,189,330
※中国特許登録：ZL 2005 1 0068852.5
※韓国特許登録:529006号
※国際特許申請中

健康は毎日の飲料水から

水道水から作れるので
1日わずか25円と
とても経済的です。

水素(H2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H2O)になり、お体を健康へと導いてくれます。
1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

6ヶ月間 1ヶ月に一度の穀物酢洗浄なし

従来品より原材料が 1.5倍

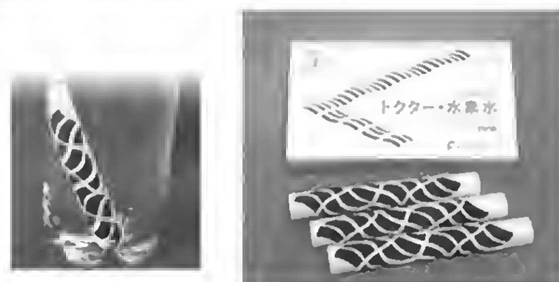
水素量が 30%up

経過日数	溶存水素濃度 (ppm)	
	プレミアムスティック	従来スティック
1日	1.43	1.04
1カ月	0.76	0.71
2カ月	0.79	0.62
3カ月	0.82	0.56
4カ月	0.86	0.42
5カ月	0.88	0.29
6カ月	0.80	0.23

試験条件：
1本／500ml PETボトル
溶存水素濃度計測後
毎日全量水交換

計測機器：
エイブル株式会社製
溶存水素濃度計 DHS-001

ドクター・水素水 PREMIUM



ドクター・水素水 PREMIUM
1箱3本入り
メーカー希望小売価格
6ヶ月タイプ 13,440円(税込み)

www.dr-suisosui.com

株式会社 FDR・フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-2 大畠ビル5F 502号
Tel:03-5728-0132 Fax:03-5728-0138

フリーダイヤル 0120-372-132 (みんなに いーみず)

水素についてもっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧下さい。
各大学機関が各学会誌に論文を発表しております。
www.aboutsuisosui.com

ヨーロッパ情報

第4回：文化としてのハンドボールを楽しむ ユーロフェスト

村松　誠（編集委員）

前回まで、チャンピオンズリーグと国内大会を例にとって、ヨーロッパのハンドボールを紹介してきました。今回は、世界の強豪国が多くあるヨーロッパハンドボールのバックボーンに迫ってみたいと思います。

日本のハンドボールは、オリンピック出場の機会を失って久しいのですが、識者の意見では、今やナショナルチームの努力だけでは、世界の強豪国の仲間入りは難しいということです。ハンドボールの世界を見ても、強豪国には強いナショナルチームを生み出す、豊かな土壌があります。ひとつには良く言われる、広い裾野が高い山を築くというものです。世界で戦うトッププレーヤーはごく限られたプレーヤーになりますが、このトッププレーヤーを支えるハンドボール人は、単に土台となるだけではなく、生活の中でハンドボールをエンジョイし、生活を豊かにしていると思えます。まさに、スポーツ振興基本計画で言う"スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとする。"に合致していると言えるでしょう。このような観点から、今回、ユーロフェストというハンドボールフェスティバルの情報を得ましたので、これを紹介しつつ、ヨーロッパハンドボールの状況に触れてみたいと思います。これらの情報は、スロベニアのこのフェスティバルの運営員であるトネ・バリッチさんから戴きました。

どんなフェスティバル？

ユーロフェストは、今年で18回目になります。どんな行事が行われているのか、まずは紹介します。まずは、世界中から140～180チーム（約3000人）が参加します。これらのチームは表に示します年齢別各カテゴリー別に試合を行い、最終的に優秀チームは表彰されます。

カテゴリー表

各カテゴリーは、それぞれ男子の部と女子の部があります。

- 11歳以下（ミニハンドボール）
- 12歳以下
- 13歳以下
- 14歳以下
- 15歳以下
- 17歳以下
- 19歳以下
- シニアーチーム

参加チームは、クラブチーム、地域選抜チーム、ナショナルチームなどが、世界中から集まります。今までの参加は、ヨーロッパからは、アルジェリア、オーストリア、ベルギー、ボスニアヘルツェゴビナ、チェコ、デンマーク、フランス、ギリシャ、クロアチア、イタリア、ハンガリー、ドイツ、ポーランド、スロバキア、セルビア、スウェーデン、スロベニアなどです。ヨーロッパ以外では、エジプト、イラン、カナダ、カタール、台湾などが参加しています。昨年は、残念ながらアジアからの参加はなかったとのことですが、ここ5年間ほどで、台湾から10チームほどの参加があったそうです。また、今年は、エジプト、イランからの打診があり、参加が期待されているとのことです。



試合以外がメインかも

試合以外には、ヨーロッパのハイレベルの指導者も招き、技術講習会も開催されますが、その外にも盛りだくさんのイベントが行われます。これも以下に一覧表を添えます。

- 全参加者パレードのオープンニングセレモニー
- ユーロフェスト　マーケット（参加国による民族音楽や代表的な食事）
- ミス・ミスター　ユーロフェスト　コンテスト
- 野外ディスコ
- フレンドシップ　イブニング（参加国の紹介）

オープニングセレモニーパレードから

ユーロフェストでは、試合だけでなく、若い人に自分たち以外の文化、宗教、民族に触れる機会であったり、新しい友達を作る絶好の機会となっています。そのために、交歓の夕べでは、参加国による、民族音楽、その国の民間伝承や昔話、その国の代表的な食事などが披露されま

す。そして、日本では難しくなってきた、ミスハンドボールやミスターハンドボールコンテストも行われます。（写真はミスハンドボールの表彰式）そして、野外で行われるディスコ。



会場は、海岸の近くで、海から数メートルのところまでコートが作られています。写真は、ヨットハーバーの近くに作られているものです。



海岸に近いため、試合が終わってすぐ、ユニフォームのまま海に飛び込み、ミス遊びをするとい光景も見られます（写真）。



家族で楽しむフェスティバル

チームの仲間や、クラブメンバーといろいろなアクティビティーを楽しむのはもちろんですが、家族がそろって参加し楽しんでいることも、このフェスティバルの特徴でしょう。今回この情報をいただいたトネ・バリッチさんの家族ですが、トネさんは運営の立場でフェスティバルを支えていますし、奥さんもボランティアでフェスティバルに参加し支えておられます。そして、二人の娘さんはプレーヤーとして試合に参加しています。写真は、トネさんの二人の娘さんが違ったチームで対戦しているところです。ドリブルカットインをしているのがお姉さん、それに着いて守っているのが妹さんです。日本でもそうですが、お子さんたちが活き活きと活動している姿を見るのは、親御さんとしてはうれしいものです。トネさんもこの写真を私に見せながら、楽しそうに語ってくれました。



場所はどこ？

フェスティバルの行われるところは、スロベニアであることはすでに述べましたが、もう少し詳しく開催地につて述べておきます。まずスロベニアという国ですが、80 年以前からのハンドボールファンの方々は、ユーゴスラビアという名前は良くご存じと思いますが、そのユーゴスラビアが分かれてできた国です。

ユーゴスラビアは、ハンドボールが再採用になったミュンヘンオリンピックの優勝国ですが、1980 年代にも世界を席巻した強豪国です。このころのファンの方々には、イサコビッチ、ブヨビッチ、エレゾビッチなどの名前を懐かしく思い出す人もいるでしょう。ロサンゼルスオリンピックでも優勝していますが、この時には日本も出場し対戦していますが、残念ながら日本は負けています。

現在日本でもユーゴという名前のプレーがあり、若い人でもユーゴは分かると思います。このユーゴスラビアが分かれたできた国々が、スロベニアであり、クロアチア、ボスニアヘルツェゴビナ、などの国々です。これらの国々は当然のことながらハンドボールの強豪国となっています。特に隣のクロアチアは、現在も世界のトップチームで、世界のトッププレーヤーであるイバノ・バリッチ選手を中心に毎回優勝に絡む位置にいます。今回お話をうかがったトネ・バリッチさんと同じ名前ですね。ちなみに、これらの国では、ハンドボールはルコメットと呼ばれています。

つい話が、ユーゴスラビアに行ってしまいましたが、もう少し地理的な話を詳しくしておきます。開催国はスロベニアですが、会場地はスロベニアのイゾラという小さな町です。ここは地中海のアドリア海に突き出た半島にあります。まさに、地中海気候の風光明媚で気候温暖なところです（写真）。



これだけでは分かりにくいと思いますが、多くの方々は、イタリア半島根元にあるベネチアは有名ですのでご存じでしょう。イゾラはその対岸のアドリア海にあります。そんな位置関係で、中世にはベネチアの一部だったようです。

あなたも参加してみてはいかがですか

1980 年代世界を席巻したユーゴスラビアは、現在も伝統を受け継ぎ、伝統というとやや日本的なのかもしれませんので、文化を受け継ぎといった方が妥当かもしれませんが、クロアチアとして今も世界の強豪国です。そしてその他の国々も、クロアチアの陰に隠れて目立ちませんが、世界の強豪国であることには間違いありません。その様な国々のハンドボールの基盤の一つはこのようなフェスティバルあるのではないかと思います。クロアチアのハンドボール人に伺った話では、5，6 才くらいからハンドボールを始め、そのほとんどの人がハンドボールを継続しているとのことでした。やはり強豪国にはそれなりのバックボーンがあるなといった感想です。

このようなところに出かけて、世界の文化を学び、交流を通して豊かな生活にしてみてはいかがでしょうか。このフェスティバルでは、レフェリーも募っています。これから世界に出て行こうとする審判の方もいかがでしょうか。何かの参考になれば幸いです。

興味のある方、さらなる情報がほしい方は、ウェブサイトを参考になさってもいいですし、私の方に連絡いただければ、提供いたします。

website：www.eurofest.si

平成21年3月14日・15日の両日、駒澤大学において、第7回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。

研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。

今月は森瑛介さん（岐阜大学大学院）の発表内容「ハンドボールの投動作に関する研究—小学生の手の形態と握力の関係—」を報告させていただきます。※尚、第7回報告は今回で終了します。次回より第8回報告を始めます。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人松韻学園福島高等学校）

ハンドボールの投動作に関する研究

—小学生の手の形態と握力の関係—

森　瑛介（岐阜大学院）　杉森弘幸（岐阜大学）　下川真良（朝日大学）　河野公昭（やまが整形外科）

キーワード：手の形態、握力、ボール保持技術

1. 研究目的

本研究は、小学生ハンドボール選手の手の形態と握力が投動作にどのような影響がみられるのか検討し、小学生におけるハンドボールの投動作指導に必要な資料を得ることを目的とした。

2. 研究方法

①研究対象：岐大ハンドボールクラブに所属している小学生合計62名（男46名、女16名）

②資料の収集：手の形態は、利き手の手長、手幅を測定し、手長×手幅を手の大きさとした。握力は、握力計（学童用）を用いて測定した。助走を用いた1号球の投距離を測定し、同時に投動作を撮影した。撮影した投動作を、ボールの保持のしかた、バックスウィング（以下BS）時のボールの軌跡に着目して観察した。ボールの軌跡は5パターン、ボール保持のしかたは4パターン、組み合わせは10パターンに分類した。〔表1〕

表1　BSのしかたの分類基準

ボール軌跡	保持のしかた	パターン
逆曲線的	両手	1
顔横から平行移動	両手	2
	下から支える	3
直線的	下から支える	4
	横からつかむ	5
	上からつかむ	6
曲線的	下から支える	7
	横からつかむ	8
	上からつかむ	9
移動なし	下から支える	10

3. 結果

①手の大きさについて（図1）

学年別には、1年と4、5、6年に差が認められた。また、2年と6年にも差が認められた。

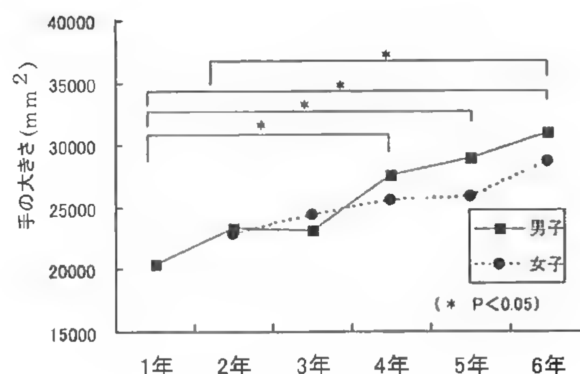


図1　学年別の手の大きさ

② BSのしかたの分類（図2）

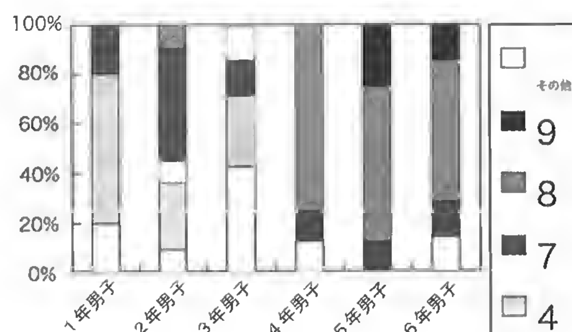


図2　学年別のBSのしかた

BSのしかたを見ていくと、1～3年ではパターン7や4の下からボールを支えながら直線的または曲線的なBSをしているものが多い。4～6年ではパターン8の横からボールを保持し、曲線的なBSをしているものが多い。また、5、6年生の15人中3人がパターン9の上からボールを保持し、曲線的なBSを行っていた。

③手の形態と投距離の関係

全体では、手長、手幅、手の大きさ、投距離の全てに有意な

関係があった。しかし、各学年においては必ずしも有意な関係を示さなかった。

④ボール保持のしかたと手の大きさとの関係

ボールの保持のしかたと手の大きさ、ボールの保持のしかたと握力には、共に有意な関係があった。そこで、ボール保持のしかたによる手の大きさに違いがあるかをみたところ、「下から」と「横から」、「下から」と「上から」、「両手」と「上から」との間に有意差があった（図3）。また、ボール保持のしかたによる握力の違いについても同様の結果となった。

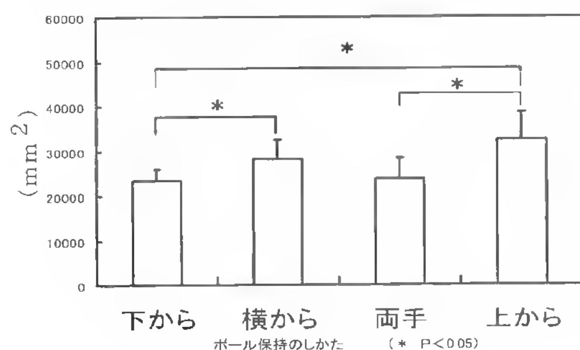


図3　保持のしかた別の手の大きさ

4. 考察

①手の形態、握力と投動作の関係

全体では手の形態と投距離には有意な関係が見られたが、各学年では、有意な関係が見られなかった。これは、標本数が少ないことが影響していると考えられ、今後標本を多くして検討する必要がある。一方で、ボール保持のしかたと握力、ボール保持のしかたと手の大きさの両方に関係があったことから、小学生の選手はボールを投げる時、手の大きさと握力に応じて合理的にボールを保持していると考えられる。すなわち、手が小さい1～3年は、ボールを落とさずにBSを完了させるために、「下から」または、「両手」でボールを支え、ボールを直線的に移動させていると考えられる。一方、4～6年は、ボールを「横から」つかみボールを曲線的に移動させているものが多く、5、6年生には、「上から」ボールを把持し曲線的にBSするものもいた。より遠くへボールを飛ばすには、BSを大きくとる必要があり、ボールを握ることでそれが可能になると考えられる。



②1号球ボールの使用時期

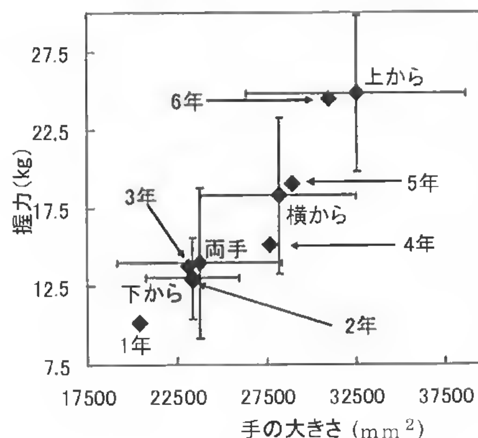


図4　保持のしかた別の手の大きさと握力の関係

図4はボール保持のしかた別にみた手の大きさと握力の関係を示した図である。1年～3年は、「下から」や「両手」の範囲に位置している。4年は「横から」と「両手」の中間に位置し、5年は「横から」、6年は「上から」の範囲に位置している。この図から、3年生までは、1号球ボールを握って保持するのは、難しいと考えられる。4年生からは、徐々に握れるようになり、5、6年は十分握れると考えられる。逆に言えば、1～3年生では、ボールの大きさやなどを検討する必要があるといえる。4～6年生では、ボールの握り方を指導し、よりよい投動作を身につけさせることが重要であると考えられる。

5. まとめ

本研究で、小学生ハンドボール選手の手の形態と握力が投動作のBSに影響を与えていることが示唆され、小学生にハンドボールの投動作を指導する際の、時期に応じた指導の方向性を示すことができた。

第19回世界女子ハンドボール選手権大会帯同報告

佐久間克彦、高野内俊也

2009年（平成21年）12月5日から12月20日まで中国・江蘇省で第19回世界女子ハンドボール選手権大会が開催された。

日本選手団は、選手16名、スタッフ7名で構成。

予選リーグは、Cグループの6チーム総当たりで5試合を蘇州で行い。その後、本戦ラウンド・プレジデントカップを張家港で4戦戦い、最終成績16位で12月16日の帰国となった。

遠征中の気候は曇りが多く、気温は10℃から0℃と寒暖の差が大きかった。

今回の遠征は、世界的なインフルエンザの影響で大会主催者もこの点に関しては厳しい管理が行なわれた。予選リーグにおいては、大会本部より体温計1本が選手団に配布された。そして、異常体温者の有無を大会本部へ報告する事が毎朝の義務とされた。ホテルの空調がカビ臭かったり、屋外がスモッグで充満していた事より咳込む選手が数人発生したが幸いにも、大事には至らずに済んだ。本戦ラウンドのホテルでは、体温報告の義務が無い代わりに試合に出発するバスに乗り込む際に地元保健所の計測官が2人待機。前額部の体温計測を行う関所が設けられていた。かの地は、スモッグも無く咳き込む選手数も減じて殆どの選手の体調は改善していた。インフルエンザ対策として選手団全員分のタミフルを持参していた。しかし、インフルエンザを疑って1名に短期間処方したのみであった。



それから、今大会は事前連絡として試合ごとにInjury Reportの提出を求められた。書式は、受傷時間、部位、診断、重症度、環境、結果（治療の有無等）がcode化してあり手間はかからなかった。しかしながら、いつも以上に時間と怪我の状況を試合中に詳細に記録。試合後に不明な状況・状態を選手に確認。この事により以前に増してコミュニケーションが深まったという良い影響が出たと感じた。予選／本戦を通じて、日本選手に大きな外傷は発生せず、病院搬送も無く、試合欠場を強いられる選手も出なかった。



ドーピング検査は、予選リーグでは遭遇したが本戦ラウンドでは機会が無かった。喘息のTUE申請を1選手のみ行っていた。サプリメント、内服薬の調査は事前合宿等で行っておりドーピング禁止薬物使用選手はいなかった。

毎日の選手の身体的／心理的ケアは高野内トレーナーを中心に行われており無事遠征が終わる事ができました事を報告致します。

2点共　写真提供・スポーツイベント社

審判部報告

平成21年度J.H.A.公認審判員 実業団レフェリーコース研修会

審判部 審査指導委員会委員長 越田 義昭



平成21年度実業団レフェリーコース研修会が、平成22年2月11日（木）から13日（土）の3日間にわたり高知市東部運動場くろしおアリーナで、公式大会「全日本実業団ハンドボールチャレンジ2010」と併催する形で実施された。

この研修会は、全日本実業団ハンドボール連盟（以下、実連）加盟チームにプレーヤーまたは関係者として5年以上在籍し、実連より推薦を受けた人を対象に開催するものである。本研修会を優秀な成績で修了した受講者には、公認審判員B級の登録申請資格が与えられる。公認審判員A・B級を取得した実連加盟チーム関係者が増えつつある現状を考えると、本研修会を修了したレフェリーを中心に実連主催大会の審判団を編成するのも夢ではないと思われる。今回の受講生は6名であった。

研修会が始まると、受講者の緊張感が漂って張り詰めた雰囲気になった。ルールブックを読むときは眼光紙背を徹するがごとく、ジェスチャーの練習をするときは余念なく、そして吹笛後に審査指導委員の指導・助言を受けるときや他のレフェリーのコメントに耳を傾けるときも真摯な態度であった。まさに何事に対しても真剣に取り組みながらトップアスリートとして活躍してきた受講者を目の当たりにし、好感をもつと同時に感銘を受けた。プレーの観察位置や見極め、判定など、今後の課題も残るが、これまでの高い競技レベルの経験を生かし、レフェリング技能を高めるべく努力を積み重ねていって欲しいものである。

この研修会の様子をつぶさに聞かれた山河和教実連会長が「世界に羽ばたく、立派なレフェリーが育ってくれるといいですね」と感慨深げにおっしゃったとおり、彼らの活躍は審判界のみならず日本ハンドボール界の発展に大きく寄与するに違いない、と私も確信している。

最後に、この研修会開催にあたり多大なるご協力を賜った武田末男高知県協会理事長をはじめ、地元の関係者および材木圭二実連事務局長に、誌面を借りて厚くお礼を申し上げたい。

日　程　2月11日（木）競技規則研修会
　　　　12日（金）開講式、レフェリー実技試験・競技規則筆記試験
　　　　13日（土）レフェリー実技試験、閉講式

講　師　藤井俊朗、越田義昭

受講者　山口　修（湧永製薬）、岩本真典（大崎電気）、大植　剛（豊田合成）、大立浩紀（豊田合成）、手塚　勝（北陸電力）、西田豊三（北陸電力）

パラリンピックを目指す車椅子ハンドボールの感動を求めて

日本車椅子ハンドボール連盟会長　小西博喜

現代の障害者スポーツに求められる「心のやさしさ」と「心の共生」を共存する生きがいの生涯スポーツは、車椅子ハンドボールにおいても他競技と同様パラリンピックが目指す花形スポーツである。そこには老若男女を問わず、思わぬ障害にもめげず、車椅子ハンドボールの激しい身体能力を駆使したプレーの中で、数多くの感動を体験し、生涯スポーツの人間的価値感を高めていく挑戦に努力を惜しんではならない。そして、車椅子ハンドボールの驚異的なプレーが生まれる迫力を期待したい。まず、今回の企画に際し、フランチェスカ・タボルスキー会長（EHF・チェコ）・ヘルム・ケーニック会長（EHF・オーストリー）のご尽力に対し心から感謝を申し上げたい。

平成13年（2001）9月、第1回全国障害者スポーツ大会の公開競技として「翔く・新世紀みやぎ国体」に「車椅子ハンドボール」「綱引き」「ボッチャ」の3種目が採択されたことは意義深かった。しかし、みやぎ国体以後公開競技の種目として、現在、車椅子ハンドボールは残念ながら実施されていない。毎年国体後に開催される全国障害者スポーツ大会に採択されることが必要である。各都道府県障害者スポーツ協会に加入するためには、それぞれ各都道府県ハンドボール協会が参加の申請願いを提出し、審査を受ける必要がある。審査には少なくとも1年間の車椅子ハンドボール活動の実績が考慮されるので努力して頂きたい。

平成16年（2004）1月、厚生労働省の後援を得て、「厚生労働大臣杯第1回日本車椅子ハンドボール競技大会」が姫路市立中央体育館において開催され、車椅子ハンドボールの挑戦がスタートした。本年度（2010）は第8回大会を迎えることになる。

さらに、平成20年（2008）10月、ヨーロッパ車椅子ハンドボールセミナー（EHF Method Commission・主管オーストリアハンドボール協会・ヘルム・ケーニック会長）がオーストリアのウィーンで開催された。フランチェスカ・タボルスキー会長（EHF・チェコ）を中心に9カ国の参加とスウェーデン、オーストリア車椅子ハンドボールチームの対戦を研修、ローレント・ボスレー（EHF・フランス講師）の指導によってゲームが紹介された。

まず、ヨーロッパにおける各国車椅子ハンドボール競技規則の現状と相違点について報告され、日本の競技規則の資料も加えて幾つかの共通課題を比較検討した。結論としては継続審議事項も含めて、ヨーロッパ・日本・アジア地域における競技規則を組織化するためにも有効なセミナーであった。とくに、コートサイズについては日本サイズ（28ｍ×15ｍ）より、ヨーロッパサイズ（40ｍ×20ｍ）（現行のハンドボール）が適当であるという意見が多かった。ヨーロッパと日本の基本的な違いは体格の大・小の差から来る競技の特性によるものと考えられる。ゴールエリアラインも6ｍとし、ボールについて日本のケンコーボール（日本の使用球）は柔らかすぎるという意見が多かった。日本ではモルテン、ミカサ製2号球を使用しているが、ヨーロッパではアデイダス2号球が使用されている。1チームのプレイヤーの人数は6名の支持が多かった。

ドリブルの回数は1回というが案がアンケートで多かった。試合時間については30分×2であったが各種別のケースがあり、継続して審議することになった。

また、今回のチームはスウェーデンが障害者のみ、オーストリアは障害者と健常者で編成されていた。ヨーロッパ・アジア地域、世界各国の目標がパラリンピック種目の加入にあるとすれば、パラリンピックの規定に準じて全員が障害者でなければならないことは必然である。各国の普及についても、その規定に沿った活動でなければパラリンピック種目の加入はさらに困難な課題となる。

それらの状況を考えて、平成22年度第8回大会には「共生スポーツ型」種目の他にパラリンピックの部（全員が障害者であること）を新規に加えたことである。

競技種別

▼競技の部　（チームは女子または障害者1名以上を含むこと）（昨年度と同じ）

▼パラリンピックの部　全員障害者であること。（今回新規に設けた種別である）

▼フレンドリーの部　ジュニア（小・中学生）または女子であること。

競技方法

コートサイズは35m×20ｍが望ましい。（日本の現行28m×15m）（ヨーロッパ40m×20m）

ゴールエリアは6ｍ（半円形）

ゴールポストは2.2m×1.65ｍ（日本の現行）（ヨーロッパ高さ2m×横幅3m）（ヨーロッパ横幅3ｍ×高さ1.7m）

7ｍスローライン；（昨年度は5m）（ヨーロッパ7m）

なお、オーストラリアにおいても車椅子ハンドボール競技が実施されており、現在はヨーロッパ・タボルスキー会長の情報を待っているが、現時点で競技規則はまだ流動的な部分を感ずる。近い将来、車椅子ハンドボール競技がパラリンピックに採択されるためには課題が多いが、そのためには各国とも具体的な協議を急がなければならない。

スコアールーム

第33回全国高校選抜大会

開催期日：2010年3月25日（木）～30日（火）
会　　場：岩手県花巻市・花巻市総合体育館ほか

【男子】

▼1回戦

県立氷見（富山）	31（18－11、13－10）21	県立盛岡第一（岩手）
県立湯沢（秋田）	35（16－12、19－11）23	北海道札幌西（北海道）
県立新宮（福岡）	38（20－8、18－14）22	県立小松工業（石川）
九州学院（熊本）	30（13－12、17－16）28	関西大学北陽（大阪）
県立富岡（群馬）	34（18－7、16－10）17	県立法隆寺国際（奈良）
高岡向陵（富山）	42（20－18、22－19）37	県立藤代紫水（茨城）
市立桜台（愛知）	41（22－9、19－17）26	神戸国際大学附属（兵庫）
浦和学院（埼玉）	31（15－6、16－11）17	県立下松工業（山口）

▼2回戦

県立小林秀峰（宮崎）	25（13－7、12－11）18	県立氷見（富山）
市川（千葉）	36（18－10、18－12）22	市立清水商業（静岡）
府立洛北（京都）	42（25－8、17－15）23	國學院大學栃木（栃木）
県立岩国工業（山口）	46（21－9、25－12）21	県立湯沢（秋田）
県立川口東（埼玉）	24（12－12、12－11）23	県立新宮（福岡）
県立東岡山工業（岡山）	26（12－11、14－8）19	学校法人石川（福島）
駿台甲府（山梨）	36（16－12、20－8）20	県立松山工業（愛媛）
愛知（愛知）	37（18－10、19－11）21	九州学院（熊本）
興南（沖縄）	31（12－12、19－13）25	県立富岡（群馬）
県立四日市工業（三重）	29（15－8、14－8）16	聖和学園（宮城）
熊本国府（熊本）	38（17－15、21－18）33	大阪体育大学浪商（大阪）
県立香川中央（香川）	47（20－12、27－16）28	高岡向陵（富山）
市立桜台（愛知）	56（32－8、24－9）17	北海道釧路工業（北海道）
県立不来方（岩手）	34（17－12、17－13）25	法政大学第二（神奈川）
瓊浦（長崎）	32（18－10、14－15）25	市立岐阜商業（岐阜）
浦和学院（埼玉）	34（18－12、16－15）27	北陸（福井）

▼3回戦

県立小林秀峰（宮崎）	34（13－10、21－11）21	市川（千葉）
県立岩国工業（山口）	34（17－12、17－11）23	府立洛北（京都）
県立東岡山工業（岡山）	30（13－14、17－10）24	県立川口東（埼玉）
愛知（愛知）	26（11－9、15－11）20	駿台甲府（山梨）
興南（沖縄）	41（25－12、16－17）29	県立四日市工業（三重）
県立香川中央（香川）	35（16－10、19－11）21	熊本国府（熊本）
県立不来方（岩手）	38（18－16、20－13）29	市立桜台（愛知）
浦和学院（埼玉）	29（17－13、12－15）28	瓊浦（長崎）

▼準々決勝

県立岩国工業（山口）	24（14－9、10－10）19	県立小林秀峰（宮崎）
愛知（愛知）	28（16－12、12－13）25	県立東岡山工業（岡山）
県立香川中央（香川）	35（16－20、19－12）32	興南（沖縄）
県立不来方（岩手）	30（15－9、15－8）17	浦和学院（埼玉）

▼準決勝

愛知（愛知）	21（9－11、12－8）19	県立岩国工業（山口）
県立香川中央（香川）	34（16－9、18－13）22	県立不来方（岩手）

▼決勝

県立香川中央（香川）	33（19－13、14－12）25	愛知（愛知）

※香川中央は、16年ぶり2度目の優勝

【女子】

▼1回戦

暁（三重）	26（7－9、19－13）22	駿台甲府（山梨）
昭和学院（千葉）	40（17－2、23－1）3	北海道釧路江南（北海道）
佼成学園女子（東京）	20（7－8、13－5）13	県立情報科学（大分）
浦和実業学園（埼玉）	32（15－14、17－14）28	高水（山口）
埼玉栄（埼玉）	34（19－12、15－14）26	聖和学園（宮城）
県立栃木商業（栃木）	31（15－12、16－6）18	県立不来方（岩手）
県立佐世保商業（長崎）	20（9－5、11－9）14	県立生駒（奈良）
横浜創英（神奈川）	19（12－5、7－11）16	県立香川中央（香川）

▼2回戦

府立洛北（京都）	44（25－11、19－10）21	暁（三重）
県立那覇西（沖縄）	24（7－8、17－9）17	明誠学院（岡山）
県立大曲農業（秋田）	34（13－10、21－16）26	高岡向陵（富山）
昭和学院（千葉）	38（20－10、18－10）20	県立神埼清明（佐賀）
県立高松商業（香川）	24（12－9、12－10）19	佼成学園女子（東京）
四天王寺（大阪）	26（12－11、14－10）21	県立飛騨高山（岐阜）
桜花学園（愛知）	27（13－7、14－11）18	県立石川（福島）
浦和実業学園（埼玉）	30（14－7、16－15）22	夙川学院（兵庫）
埼玉栄（埼玉）	22（14－12、8－8）20	宣真（大阪）
県立氷見（富山）	27（16－9、11－8）17	県立四日市四郷（三重）
県立松橋（熊本）	29（13－6、16－16）22	北海道札幌丘珠（北海道）
県立華陵（山口）	44（23－9、21－8）17	県立栃木商業（栃木）
小松市立（石川）	35（19－10、16－11）21	県立佐世保商業（長崎）
文化女子大学附属杉並（東京）	24（12－14、12－7）21	県立岐阜商業（岐阜）
県立湯沢（秋田）	31（16－7、15－10）17	県立彦根翔陽（滋賀）
名古屋経済大学市邨（愛知）	41（19－8、22－10）18	横浜創英（神奈川）

▼3回戦

府立洛北（京都）	31（13－6、18－10）16	県立那覇西（沖縄）
昭和学院（千葉）	34（13－11、21－10）21	県立大曲農業（秋田）
四天王寺（大阪）	15（8－5、7－7）12	県立高松商業（香川）
浦和実業学園（埼玉）	28（16－8、12－10）18	桜花学園（愛知）
埼玉栄（埼玉）	33（17－17、16－13）30	県立氷見（富山）
県立華陵（山口）	31（18－8、13－13）21	県立松橋（熊本）
文化女子大学附属杉並（東京）	23（10－9、13－11）20	小松市立（石川）
名古屋経済大学市邨（愛知）	23（12－10、11－9）19	県立湯沢（秋田）

▼準々決勝

府立洛北（京都）	33（17－10、16－13）23	昭和学院（千葉）
四天王寺（大阪）	27（19－13、8－12）25	浦和実業学園（埼玉）
県立華陵（山口）	29（14－15、15－11）26	埼玉栄（埼玉）
文化女子大学附属杉並（東京）	21（16－6、5－10）16	名古屋経済大学市邨（愛知）

▼準決勝

四天王寺（大阪）	19（11－8、8－10）18	府立洛北（京都）
県立華陵（山口）	25（11－12、14－12）24	文化女子大学附属杉並（東京）

▼決勝

四天王寺（大阪）	24（12－4、12－8）12	県立華陵（山口）

※四天王寺は、18年ぶり2度目の優勝

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】小島収治【福　島】今野雅益【茨　城】稲吉　繁、田中汀子、田中　将【群　馬】伊　克巳【埼　玉】豊田　武、豊田久恵、高田　誠【千　葉】外山朝子、勝俣裕二、吉田　修、石橋　茂、石橋美保【東　京】渡部美乃里、田村公孝、大浦裕司【神奈川】鷲塚賢士郎、杉山義祥、植村　繁、渡辺亜由美、平岡秀雄【山　梨】千野恒夫【静　岡】宮岸健次【愛　知】筒井理絵、西村亮治【大　阪】小森園多恵子【兵　庫】高井敬二、丸茂登茂子、丸茂康子【広　島】田中友紀、山根温子、有田　忍【高　知】有光正憲、佐賀厚幸

※2010年4月より「20万人会」と名称が変更されます。

【5・6月の行事予定】

【会議】

5月15日(土)　常務理事会(東京)

6月6日(日)　第1回評議員会・第1回理事会(東京)

【大会】

6月22日(火)～27日(日)
第4回ビーチハンドボール世界選手権
(トルコ・アンタルト)

6月27日(日)～7月4日(日)
第8回女子・第20回男子世界学生選手権
(ハンガリー・ニーレジハーザ)



HAND BALL CONTENTS May.

※次号は6・7月合併号として、7月1日に発行されます。

(登録チームの購読料は登録料に含む)

asics
sound mind, sound body

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
THH514 ¥16,800（本体¥16,000）
● カラー 5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ 23.0～29.0cm



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
THH515 ¥15,750（本体¥15,000）
● カラー 2300 レッド×パールホワイト
5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ 23.0～29.0cm



JAPAN
JOC オフィシャルパートナー

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。 表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第五〇九号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十二年四月二十六日印刷 平成二十二年五月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三二〇〇円